



公益財団法人泉北のまちと暮らしを考える財団 「財団のこれまで」と「現状の成果」



2025年4月6日

公益財団法人泉北のまちと暮らしを考える財団

代表理事 宝楽陸寛

**寄付頂いたすべてのみなさんへ
感謝申し上げます**

のべ寄付額

¥55,154,323

寄付者数

のべ1,428人

2017年泉北ニュータウンまちびらき50周年から 加速しました

サムズ・ミーティング



一般財団法人設立



休眠預金事業開始



遺贈寄付基金



きっかけ
まちびらき50周年



設立寄付キャンペーン



まちな家事室・泉北ラボ
クラファン



居場所加速



2017

2018

2019

2020.2.3

2021

2022

2023

2024

2025

法人1期目

法人7期目

少し思い出話を

設立前夜サムズ会議



2018年3月19日

- 「まちを良くしたい」という熱意だけはあったが、お金がない、ノウハウがない、協力者が足りない...

なかなか集まらない寄付



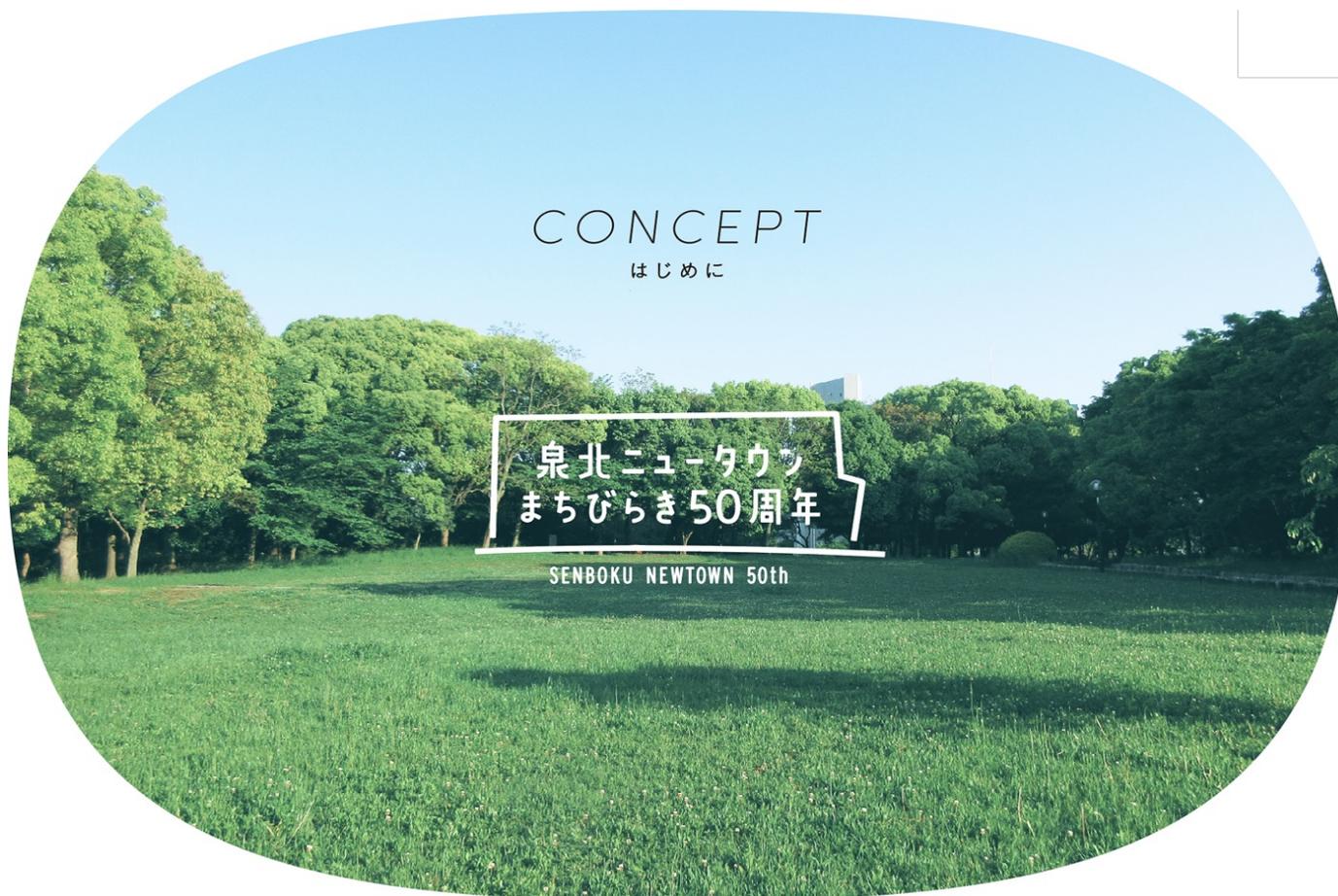
2019年5月8日

- 大きな資金源がない中で、どう寄付を呼びかけ、信頼を得ていったのか
- 継続と関係人口

手元に残ったのは5万円



- 2020年2月3日登記
- 初年度予算
登記費用11,4万円
残額20,136円



～出会う、つながる、歩み出す～

50年前に生まれた泉北ニュータウンは、
様々な暮らしを育んできました。

WONDER SENBOKU

ワンダーセンボク



泉北で遊ぼう

「泉北」には、現在大きく分けて2つの暮らしがあります。昔から、自然豊かな谷あいの村々で営まれてきた農的暮らし。そして1967年に、丘を切り開いてつくられたニュータウンでの街的暮らしです。この2つは当時、隔たりもありましたが、できる限り多くの緑地や農地を残した都市計画によって共存を果たし、ニュータウンのまちびらきから50年が経った今では、自然と街の両方の良さを楽しめる独自の環境をつくりだしています。

「WONDER SENBOKU」には、これまで「暮らす場所」としてしか語られてこなかった泉北の「遊べる魅力」を知り、訪れて体験し、そこにある健やかな暮らしを実感する人が増えて欲しいという願いが込められています。





SENBOKU TRIAL

公募で選ばれた11名の市民企画プロジェクト
駅前・団地・パブリックスペース・緑資源の活用



未来を
語ると
見えてきた

30年後、どんなまちを子どもたちに残したいですか？



- ・みんなが元気で生活できるまち
- ・自然が残るあこがれのまち
- ・全員が活躍できるまち
- ・それぞれの得意が活かせるまち
- ・近所づきあいのあるまち
- ・おとなも笑顔・こどもも笑顔
- ・やりたい時にやりたいことをやりたいだけできるまち
- ・みんながみんな 自分のこどものようなまち
- ・「ただいま」と帰る場所
- ・ころもからだもオーガニック
- ・いろいろな世代がそれぞれに都合よく暮らせる
- ・夢や希望を語れるまち
- ・今抱えている問題をクリアして
みんなで地域を育てるまち
- ・地域で子育てできるつながりのあるまち
- ・おとなのヒミツ基地のようなまち
- ・ひとりひとりのくらしをあきらめない

ちいき座談会



2018.04-05

全10回

8か所で開催

のべ参加数 **58**名

(事務局・ゲスト除く)

超少子高齢化の中で、
看過されがちな

- ・こども
- ・障がい者
- ・外国人など

地域での支えが必要な
当事者をテーマとした。



寄付達成に合わせて
未来を考える仲間と
円卓会議を開催



設立基本財産 3,325,026円達成

304名・組織の支援

2020年2月3日登記

大阪) 泉北NTで市民財団を 設立へ寄付募る

有料記事

加戸靖史 2019年7月9日 3時00分



財団設立へ寄付を呼びかける宝楽陸寛さん＝2019年6月17日、大阪府堺市南区茶山台2丁、加戸靖史撮影

まちびらきから半世紀超を経た 大阪府 南部の泉北ニュータウン（NT）で、さまざまな困りごとの解決に挑む市民を市民のお金で応援する公益財団法人をつくろうと、有志が動き出した。目指すは市民による「ニュータウン革命」だ。

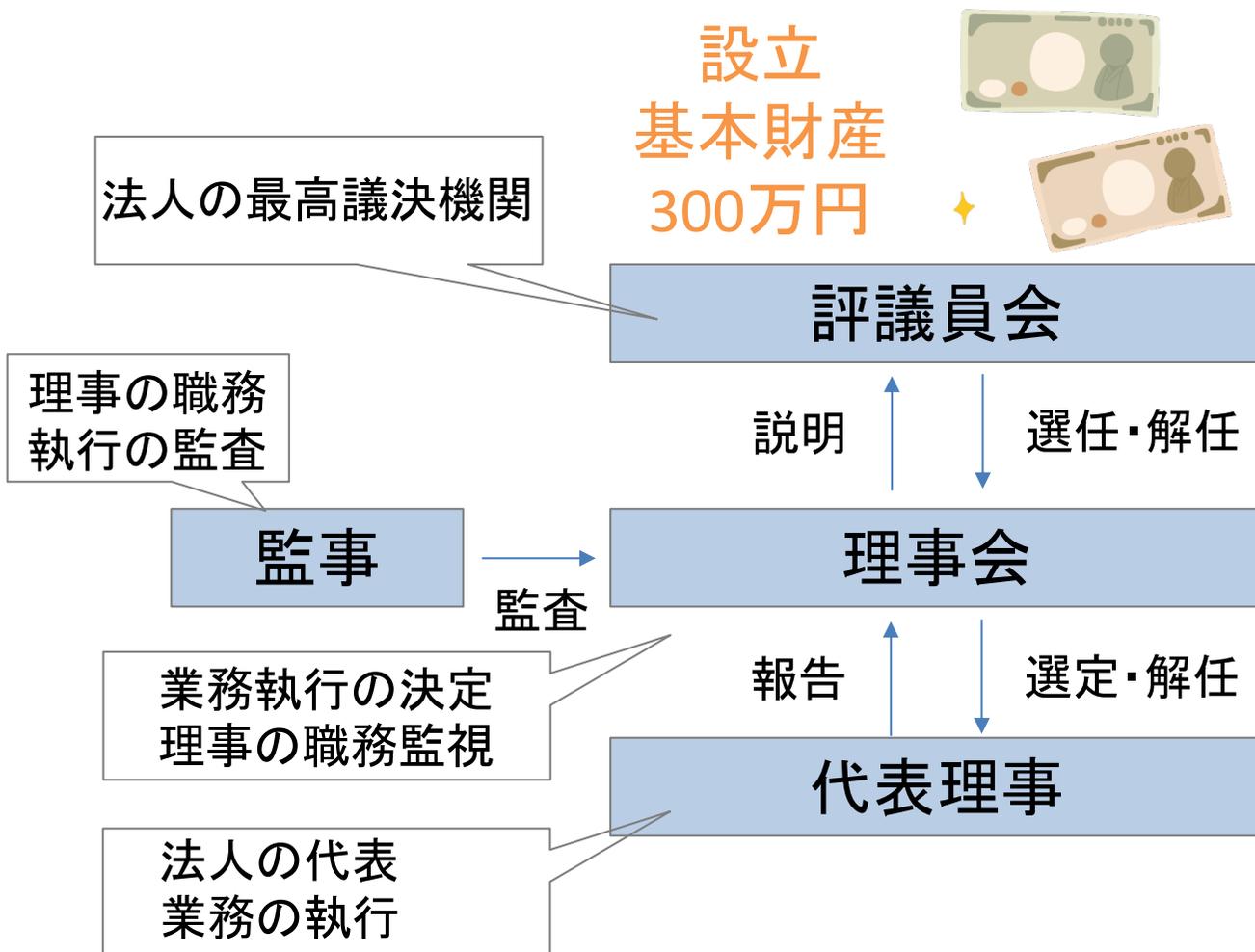
「市民がつくる財団法人をニュータウンに設立したい！」。（仮称）泉北のまちと暮らしを考える財団が特設サイト（<http://camp-fire.jp/projects/view/160996>）で今月25日まで、寄付を呼びかけている。財団設立時の基本財産に充てるため、目標は300万円だ。

「チャレンジしたい人がいれば『応援するよ』と言い合える文化を作りたい」。財団準備室の宝楽陸寛（ほうらくみちひろ）さん（37）は力を込める。

そもそも
公益財団法人
や

市民コミュニティ財団とは？

公益法人三法による法人内役割と責任が明確



◆評議員

早瀬昇 (社会福祉法人大阪ボランティア協会 理事長)
 辻本幸司 (J:COM堺局局長)
 中野瑞彦 (桃山学院大学 学長)
 牧野丹奈子 (桃山学院大学ビジネスデザイン学部教授)
 中辻忠行 (社会福祉法人 よしみ会 業務執行理事)
 吉田正美 (生活クラブエスコープ大阪 理事長)

◆理事

増田 昇 (大阪府立大学名誉教授)
 西尾正敏 (社会福祉法人 美木多園理事長)
 西辻宏道 (有限会社 千総代表取締役)
 岩井眞琴 (マーケッター)
 木下裕美子 (堺自然ふれあいの森所長)
 寶楽陸寛

◆監事

辻井芳樹 (公認会計士)
 河合将生 (office musubime)

**事務局体制 代表＋正社員・乗組員1名＋担当理事
 非常勤1名**

**泉北のまちと暮らしを考える財団は
どのように成長してきたのか？**

寄付者と寄付金の変遷

過去6期の寄付の推移

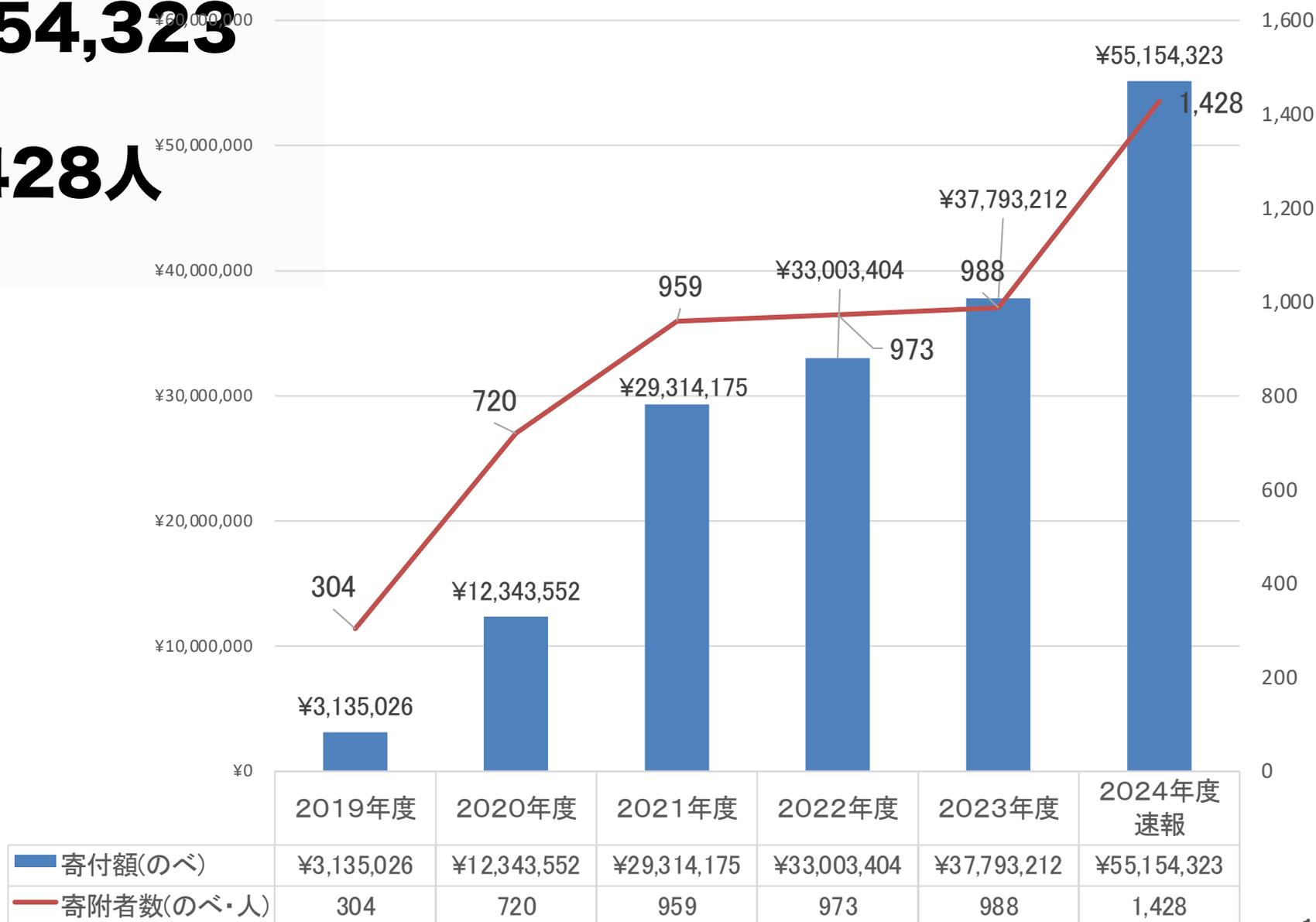
のべ寄付額

¥55,154,323

寄付者数

のべ1,428人

年間寄付額と寄附者の推移



過去6期の寄付の推移

公益財団法人
泉北のまちと暮らしを考える財団
コミュニティ基金



のべ寄付額
¥55,154,323
寄付者数
のべ**1,428人**

年間寄付額と寄附者の推移



新型コロナウイルス 緊急支援基金 私と地域と世界のファンド

#みんなおなじ空の下

新型コロナウイルス感染症の危機を乗り越え、「私」「地域」「世界」をつなぎ、最も影響を受け支援を必要とする人や地域と一緒に前に進んでいくための基金です。
そして、SDGs達成の道につながる基金でもあります。



■ 寄付額(のべ)
— 寄附者数(のべ・人)

例 課題解決を担うNPOなどへの助成事業

新型コロナウイルス
緊急支援基金

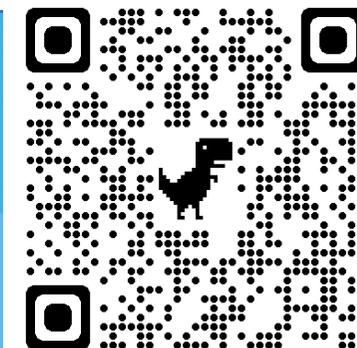
私と地域と世界のファンド

#みんなおんなじ空の下



新型コロナウイルス感染症の危機を乗り越え、「私」「地域」「世界」をつなぎ、最も影響を受け支援を必要とする人や地域と一緒に前に進んでいくための基金です。

そして、SDGs達成の道につながる基金でもあります。



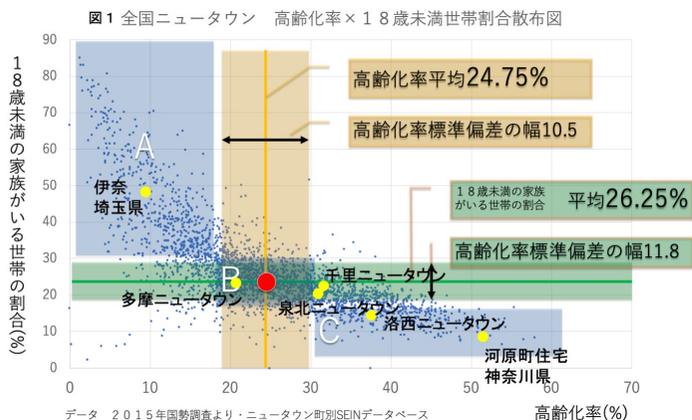
新型コロナウイルス感染症の拡大により団体の運営に影響を受けている、かつコロナ禍で困難な状況となっている人々を支える下記テーマの活動をおこなうNPO・NGOなどの非営利団体(任意団体、非営利型の一般／公益社団法人、一般／公益財団法人、社会福祉法人)を対象とします。なお、重複するテーマを複数選択することも可能です。ただし助成金の上限は30万円です。

時期 2020年7月公募
 寄付財源 6,522,000円
 支援先団体数 35団体

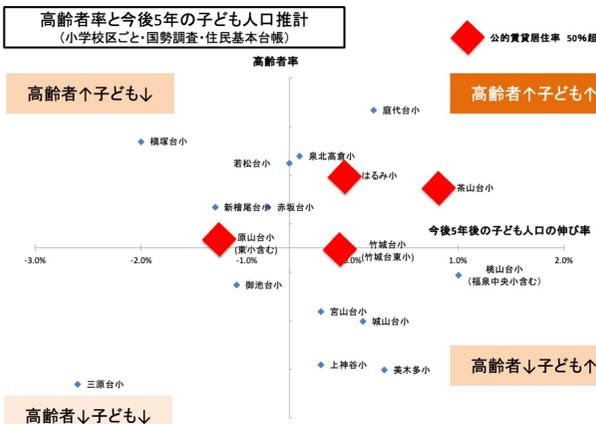
概要	
助成額	1団体あたり上限35万円
採択予定	35団体を採択予定
概要	下記テーマに沿った団体を支援する ① 生活が立ち行かなくなった人が、明日のいのちを繋ぐための支援 ② 2つ以上の課題や災害で困難を抱えている人や地域への支援 ③ 新型コロナウイルス感染症の拡大予防のための取り組み ④ 日常の生活が維持できず困っている人の明日のいのちを繋ぐ支援 ⑤ 生きづらさに襲われていて、緊急支援が必要な人のために ⑥ 特別な配慮が必要な人のための支援 ⑦ 子どもたちや若者が未来の夢をあきらめないための支援
協働	私と地域と世界のファンド運営管理団体 社会福祉法人大阪ボランティア協会 NPO法人関西NGO協議会 一財泉北のまちと暮らしを考える財団

なぜコミュニティ財団が暮らしの場に必要なのか？ 泉北ニュータウンの地域課題 = 全国の地域課題の縮図

ニュータウンの地域課題は日本の縮図



一言でオールドニュータウンと語れない実情



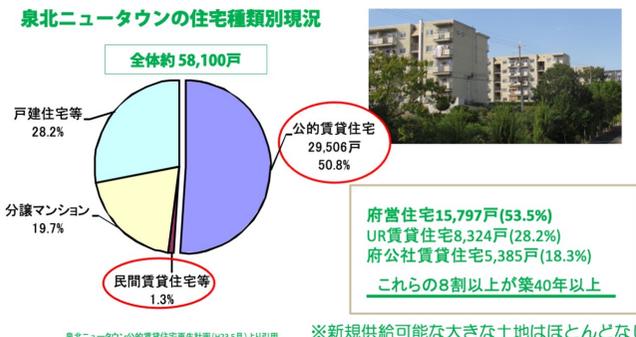
課題の当事者か？ 担い手か？

- ① 高齢者（65歳～）で
- ② 介護の必要がない方及び要支援1・2の方で
- ③ 食料品・日用品等の日常の買い物に困難又は不便な状況に置かれている方が対象と想定しました。

要介護 5,836人	一人暮らし 5,916人	免許なし・免許返納 推計 2,822人
2017年9月末時点統計から 堺市南区認定率 推計値 21%		
要介護でない+要支援1・2 * 41,012人 *内 2人に1人免許所持していない 推計19,568人		

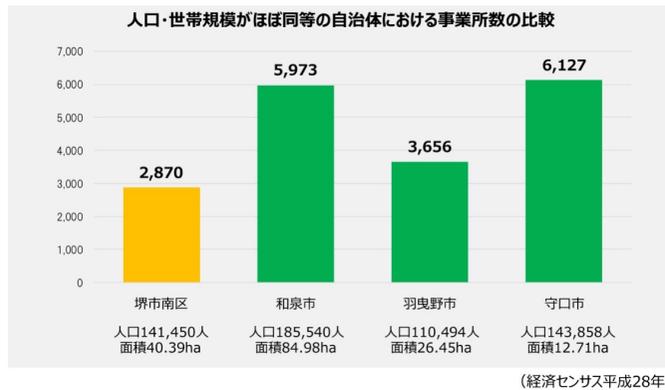
▶現在免許を持たない多くの高齢者は「おでかけ応援カード」でバスの移動を積極的に活用されており、元気に買い物できる環境が整っている
▶実は、多くの高齢者の方が、要介護でない+要支援1・2であり買い物難民の再定義ができていない

全住戸の50% 公的賃貸住宅

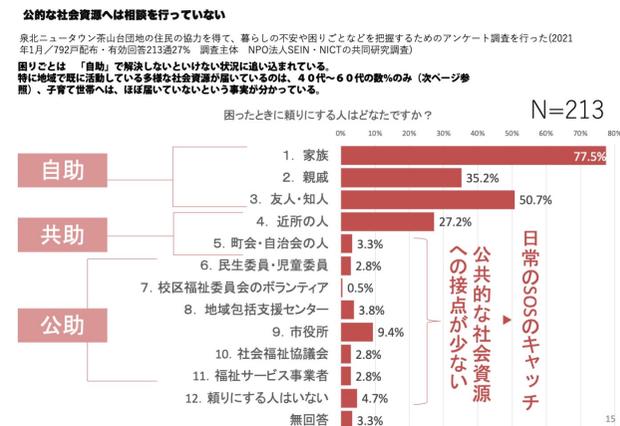


▶若年層のニーズに適した賃貸住宅の不足
+住宅環境特有の社会的孤立の加速(ニーズに上がりにくい)

事業所数が同規模市町村より少ない =チャレンジャーが生まれにくい



ニュータウンならではの 孤独孤立でも生きていける

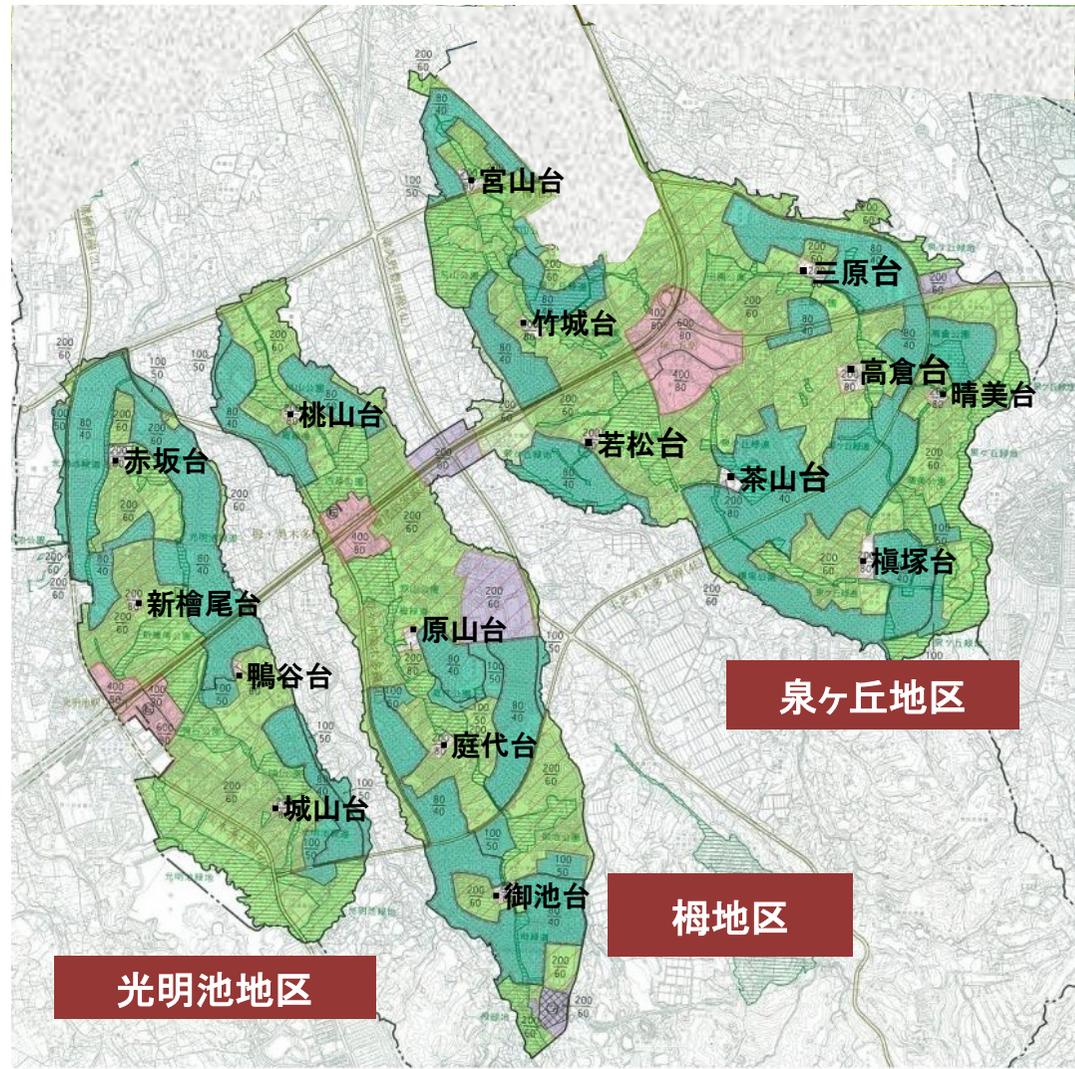


千里ニュータウンと並ぶ大阪府内最大のニュータウン



* 大阪都心まで約25km
 南海本線・高野線 難波駅まで約30分
 関西空港駅まで約60分

事業主体	大阪府企業局
事業期間	昭和40年12月～昭和58年3月
入居開始	昭和42年12月
開発面積	約1,557ha (堺市:1,511ha)
地区、住区	3地区、16住区
計画戸数	約54,000戸 (堺市:53,500戸)
計画人口	約18万人



人口：127,257人 (南区：149,385人)
 世帯数：57,841世帯 (南区：66,277世帯)

(平成28年 3月末住民基本台帳)
 高齢化率 33.2% (後期高齢者+)

公的な社会資源へは相談を行っていない

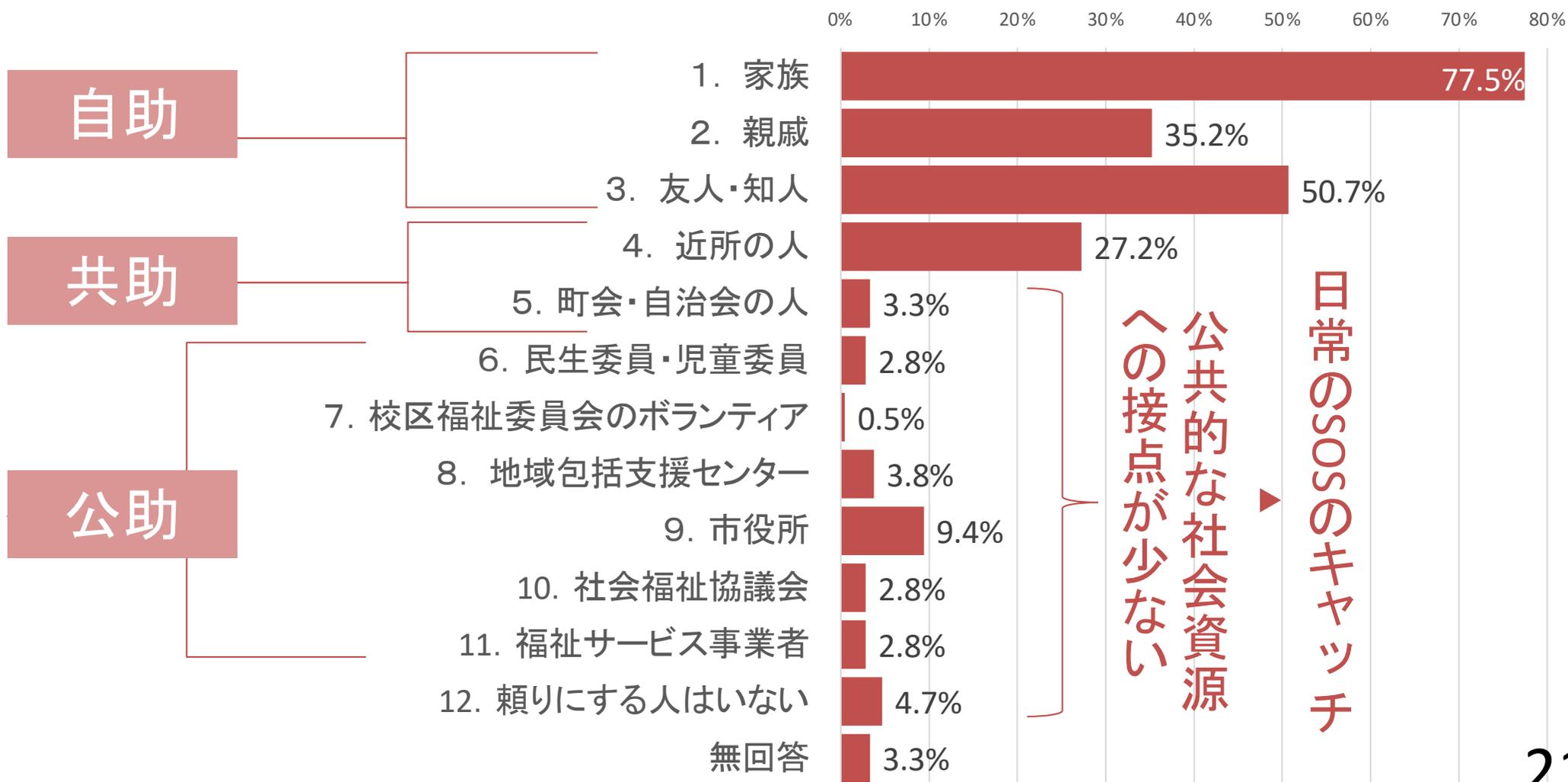
泉北ニュータウン茶山台団地の住民の協力を得て、暮らしの不安や困りごとなどを把握するためのアンケート調査を行った(2021年1月/792戸配布・有効回答213通27% 調査主体 NPO法人SEIN・NICTの共同研究調査)

困りごとは 「自助」で解決しないといけない状況に追い込まれている。

特に地域で既に活動している多様な社会資源が届いているのは、40代～60代の数%のみ(次ページ参照)、子育て世帯へは、ほぼ届いていないという事実が分かっている。

困ったときに頼りにする人はどなたですか？

N=213



コロナ禍・・・今こそ企てることが必要なのに 暮らしの場にコミュニティ拠点が無いのでは？

会議室を借りる
ほどではない
けど集まりたい

今こそクラスターにならないといけないのに
クラスターが否定され
公共施設も人数制限で借りにくい・・・

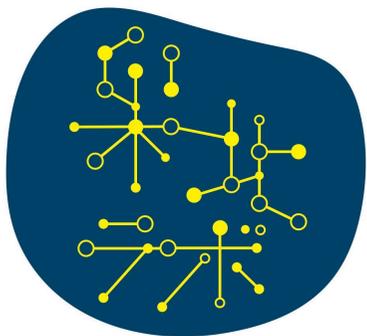
コミュニティカフェ
的なカフェはあるが
社会課題を
話しながら
お茶って気を使う



あっそっか

自分たちではじめてたら良いのだ

現場を持つ財団としての強み まちの家事室・泉北ラボ



With

シェアキッチン
Yycafe Semboku
高倉台小学校出身



本を読みながら楽しめる カフェ

こだわり抜いた豆から挽く。
飲みやすいオリジナルコー
ヒー美味しい一杯をぜひ！

Yycafe 監修

本棚の本は寄付で集まった図
書が並んでいます。



まちの家事室

ランドリーやアイロン、ミシン付き
の「まちの家事室」。洗濯だけでも
大歓。本を片手にゆっくり、友だ
ちと楽しく、PC仕事にもものづくり
…… イベントや撮影にもどうぞ。自
分らしくすごせる場所です。



レンタルスペース

3つのスペースがあります。それぞれ
机1つからレンタル可能です。通常は
ランドリー付き喫茶として営業して
いるスペースをお貸しするという特性
上、さまざまな条件がございます。お
問合せください。



コワーキング スペース

2Fは仕事に集中できるコワー
キングスペースがあります。
仕事に疲れた方が下に降りて
きて、また環境を変えて仕事
に集中することも可能です。



最初の2年間の数字

実施結果のアウトプット

関係人口 **40,160人**

家事室利用 **のべ2011名**

レンタルスペース
のべ502団体

コミュニティフリッジ
のべ2,321回

コミュニティフリッジ寄付
3,025,445円

社会資源接続 **30人**

2024年3月末時点

参加できるカフェ

クラウドファンディング **10,653,000円**



クラウドファンディングは仲間づくり！時間はなくてもお金だけで応援する方法です。クラウドファンディングと、大阪府・村上財団、トヨタ財団の寄付が集まりました。

新築だけどDIY

のべ119人参加



体験を共有すると仲間が増えます。泉北ラボはDIY以外に、本の寄付、食材の寄付などいろいろな使い方が可能です。

社会的孤立状態の子育てを支える



多様な方法で支援できる。コミュニティフリッジは、個人もお店も参加できる。インターネットからでも支援できる仕組みです。事前登録した利用者はスマートフォンと、会員QRコードで必要商品を受け取りが可能です。

財団が生んできた成果

現在力を入れていること①

助成事業



現在力を入れていること②

私設の公民館・泉北ラボ



現在力を入れていること③

遺贈寄付



全国レガシーギフト協会は、遺贈寄付をお考えのみなさまに
中立・安全に無料相談できる 全国の窓口をつなぎます。

遺贈寄付(いぞうきふ)とは

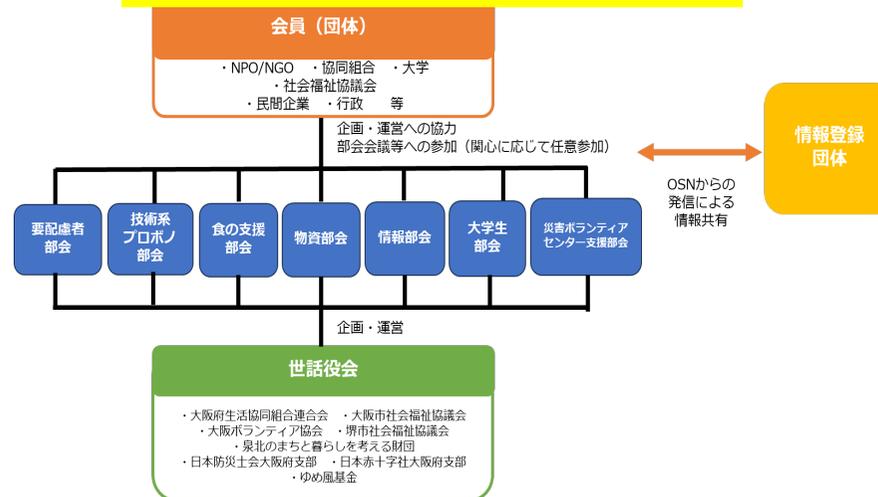
一般にはお亡くなりになる方が、遺言によって、財産の全部または一部を法定相続人または法定相続人以外の人に無償で譲渡(贈与)することを遺贈寄付とします。当協会では遺言による寄付(遺贈)に加えて、相続財産の寄付、信託による寄付、の3つを総称して「遺贈寄付」と呼んでいます。

世界的に先進国が高齢化する中で、諸外国でも遺贈寄付の役割が改めて注目されています。少子高齢化社会において、すべての社会課題の解決を税金と行政だけで担うことが困難になってきています。そうした中で自分らしい人生の集大成の在り方をかなえ、次世代のために、遺贈寄付を通じて社会への「恩返し」をしようとする人たちが少しずつ増えてきているのが日本においても見られます。

	寄付の意思を伝える方法	寄付者
遺言による寄付	財産の全部または一部を民間非営利団体に寄付することを遺言で残す	死亡した個人
相続財産の寄付	手紙、エンディングノート、言葉などで遺族に相続財産の全部または一部を寄付することを伝える	相続人
信託による寄付	信託を引き受ける者との契約によって財産の全部または一部を民間非営利団体に寄付することを約する	個人と信託契約した受託者

現在力を入れていること④

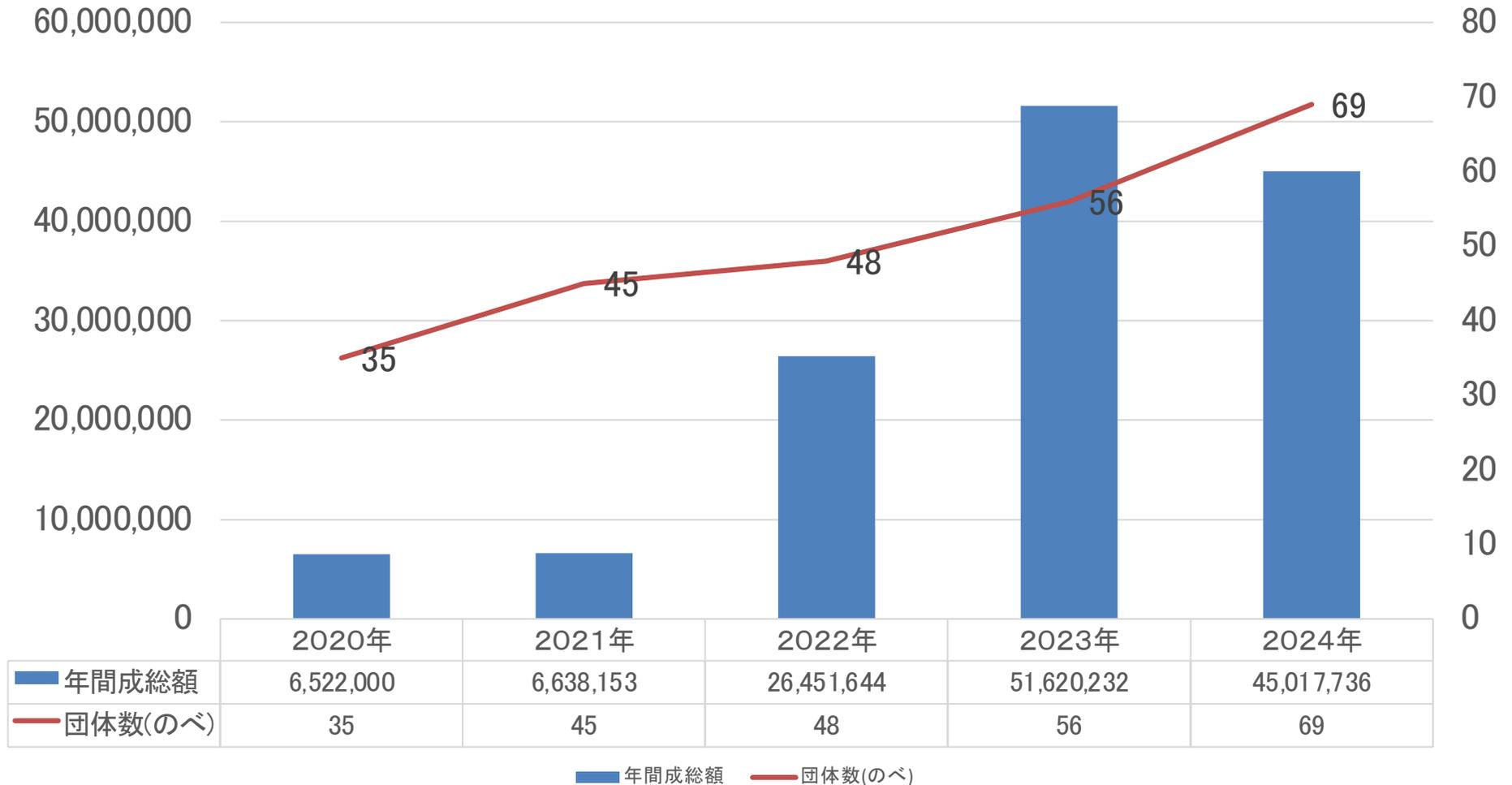
おおさか災害支援ネットワーク



現在力を入れている事業①

助成プログラムを通じた支援団体数と金額の推移

助成プログラムを通じた支援団体数と金額の推移



現在力を入れていること②
関係人口が増え続ける拠点事業

関係人口を重視



- 2024年度は地域住民と泉北ラボの位置する大阪健康福祉短期大学さん自治会さんとコミュニティガーデン化

私設の公民館



- カフェでもあり、活動拠点でもある居場所だからこそ、つねに新しいつながりが生まれるコミュニティを育む

想いをつなぐ寄付



故工藤悦子様のご遺贈寄付により、基金を設立しました。当基金は、**故人の地域社会に対する温かいお気持ちに報い**、障がいや病気を抱える方々とそのご家族がより豊かな生活が送れるよう、また、未来を担う子ども達・若者が健やかに成長できるよう日々活動されている団体等に支援を行い、地域社会全体の福祉向上に貢献することを目的としています。

助成原資 810万円

採択団体 10団体

社会課題を発掘する

採択団体の例

- 社会的認知度が低く誤解されることが多いギフテッド。学級に3~5人はいると言われているギフテッドであるが、教育現場での不適切な対応のため教育を受けることができていない現状がある。
- 現在、不登校の人数は年々増えており高齢ひきこもりも社会課題である。この課題の解決には早期発見と予防が必要である。
- 障害者(児)の社会参加における課題は、① 物理的・精神的に移動困難。② 見学→体験→利用(社会参加)のプロセス中の見学のハードルが高く、利用に至らない。

遺贈寄付を広げるために



全国レガシーギフト協会は、遺贈寄付をお考えのみなさまに
中立・安全に無料相談できる 全国の窓口をつなぎます。

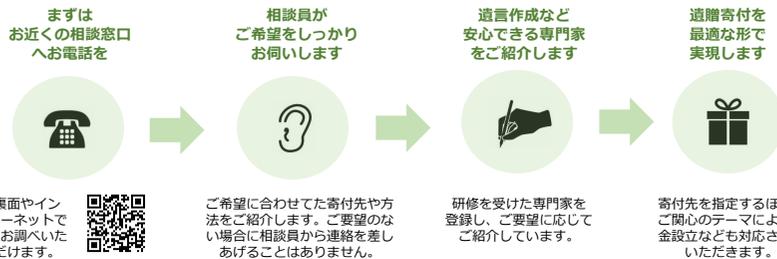
遺贈寄付(いぞうきふ)とは

一般にはお亡くなりになる方が、遺言によって、財産の全部または一部を法定相続人または法定相続人以外の人に無償で譲渡(贈与)することを遺贈寄付といっています。当協会では遺言による寄付(遺贈)に加えて、相続財産の寄付、信託による寄付、の3つを総称して「遺贈寄付」と呼んでいます。

世界的に先進国が高齢化する中で、諸外国でも遺贈寄付の役割が改めて注目されています。少子高齢化社会において、すべての社会課題の解決を税金と行政だけで担うことが困難になってきています。そうした中で自分らしい人生の集大成の在り方をかなえ、次世代のために、遺贈寄付を通じて社会への「恩返し」をしようとする人たちが少しずつ増えてきているのが日本においても見られます。

	寄付の意思を伝える方法	寄付者
遺言による寄付	財産の全部または一部を民間非営利団体に寄付することを遺言で残す	死亡した個人
相続財産の寄付	手紙、エンディングノート、言葉などで遺族に相続財産の全部または一部を寄付することを伝える	相続人
信託による寄付	信託を引き受ける者との契約によって財産の全部または一部を民間非営利団体に寄付することを約する	個人と信託契約した受託者

【ご相談から執行まで】



全国レガシーギフト協会の概要

- ◎目的
人生の集大成としての寄付である、遺贈寄付(遺言による寄付、相続財産からの寄付、信託による寄付等)や資産寄付が寄付者本人の望む最適な形で実現し、寄付した財産が地域の未来資産となり世代を超えて継承される社会を実現することを目的とする。
- ◎事業
1. 情報発信事業: 情報提供のポータルサイト「いぞう寄付の窓口」の運営、最新事例の情報発信等
 2. 相談窓口事業: 無料相談窓口サービスの全国各地での提供、個別相談者ニーズに応じた専門家や寄付先相談機関、寄付受入れ先の情報提供
 3. 人材育成事業: 専門家向け、民間非営利団体向けの遺贈寄付研修の実施
 4. 普及啓発事業: 書籍の発行、情報の提供、「遺贈寄付ウィーク」キャンペーンやイベント開催等を通じた社会理解の促進と制度や仕組み改善のための政策提言活動

遺贈寄付ウィーク 2024

- Legacy Giving Week 2024 -

参加
無料

弁護士に聞く あなたらしさと家族の幸せを守る 終活セミナー

セミナー定員
20名

事前
予約制

1人でも
ご夫婦でも
参加可



「終活」という言葉は、もはや他人事ではありません。自分らしい人生の終焉を迎えるために、そして大切な家族に笑顔でさよならを伝えるために、今、できることがあります。このセミナーでは、遺言書のない親の相続で苦労した経験のある弁護士が分かりやすく解説。セミナー後、無料法律相談も受け付けます(受講者の中から先着4名、事前申し込み制)。

こんなお悩みはありませんか？

- トラブルを避ける相続についての基礎知識を知りたい
- 遺言書作成について知りたい
- 具体的な手順や気を付けるべきポイントをしりたい
- 相続財産や遺言証書に残すあなたらしい資産の活かし方をしりたい

日時 2024年 9月13日(金)

時間 セミナー 13:00~14:30
個別相談 15:00~17:00
個別法律相談は30分枠(先着4名)

場所 泉北ラボ (無料P有)
堺市南区高倉台1-2-1シェアタウン泉ヶ丘ネ
クストD棟2 大阪健康福祉短期大学横

セミナー講師 弁護士
岸本英嗣 先生 東京表参道法律会計事務所
富田林市育ち



大阪の遺贈寄付・相談は私達が
お手伝いします。

お申込み
お問合せ

▼WEBフォームまたはお電話にてお申込みください

072-320-8704 <https://forms.gle/XiTuHhUsDRF8EVgr5>

【主催】公益財団法人泉北のまちと暮らしを考える財団

【後援】一般社団法人 全国レガシーギフト協会



現在力を入れている事業④
おおさか災害支援ネットワーク

大阪の災害支援



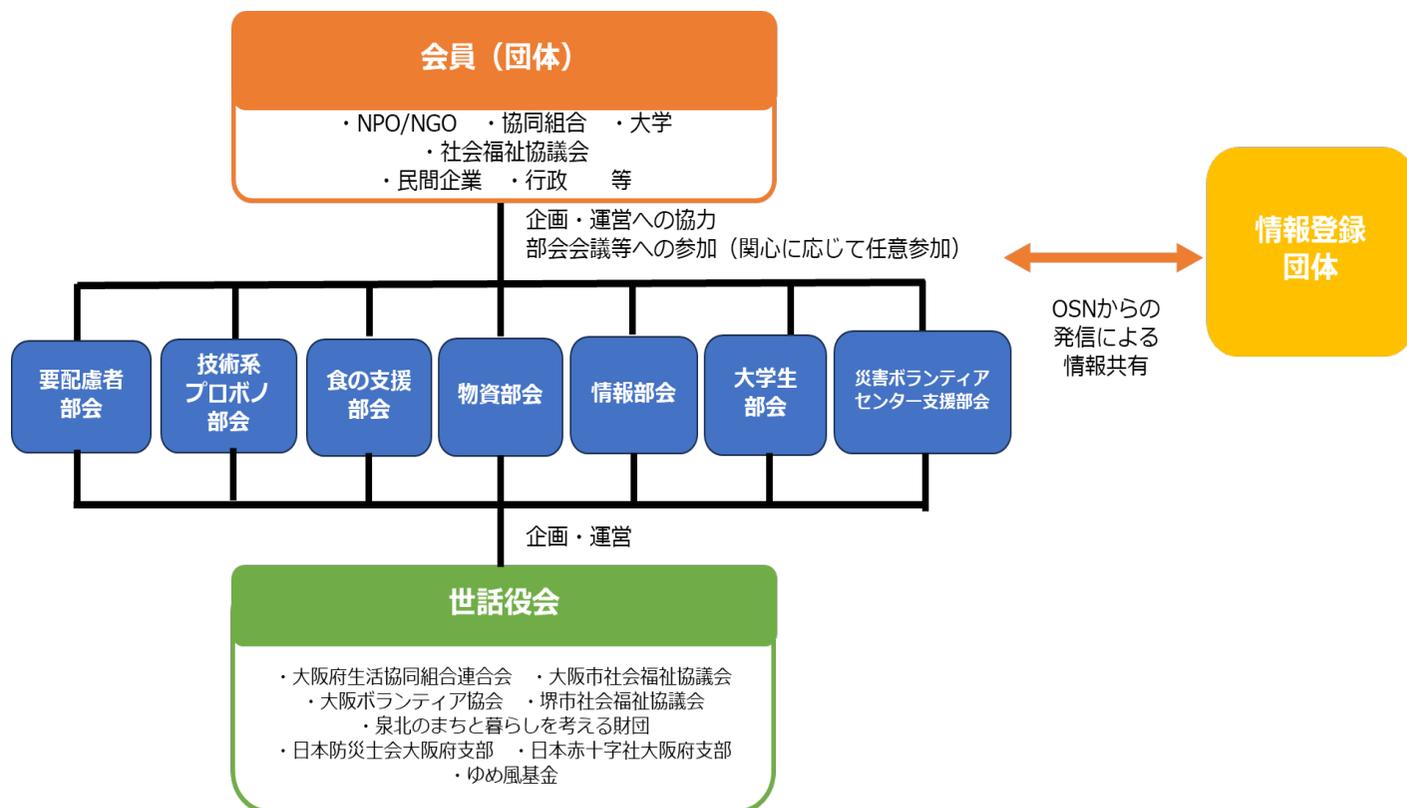
- 大阪府が地域防災計画に位置づける災害中間支援組織の世話役に
- 災害ボランティア活動支援のためにネットワーク化をつとめる

災害を意識したクラウドファンディング



- 資金的支援の強みを活かし、市民コミュニティ財団として活動を担う

おおさか災害支援ネットワーク（略称 OSN）



写真で見るOSNの歩み

◆第1回 2014年7月9日

大阪社会福祉指導センター

参加団体による自己紹介、「ネットワークをどのような場にしたいか」ワールドカフェなど ※当日「おおさか災害支援ネットワーク」名称が決定

33団体 56人



◆第16回 2020年2月14日

生協おおさかパルコープ

「台風15号19号での同時多発水害における長野県、福島県事例実践。災害時における広域ネットワークのあり方」をグループワーク。

37団体 55人



◆第22回 2023年1月23日

大阪公立大学I-siteなんば2階 会議室・オンライン

（Zoom）

基調説明の後、身近なエリアでのネットワーク構築を目的とした災害支援ワークショップを実施し、各団体の活動内容の共有

21団体35人
オンライン4人



変化を起こした特徴的なポイント

関係人口を重視する



自走型自治モデル



行政等との連携

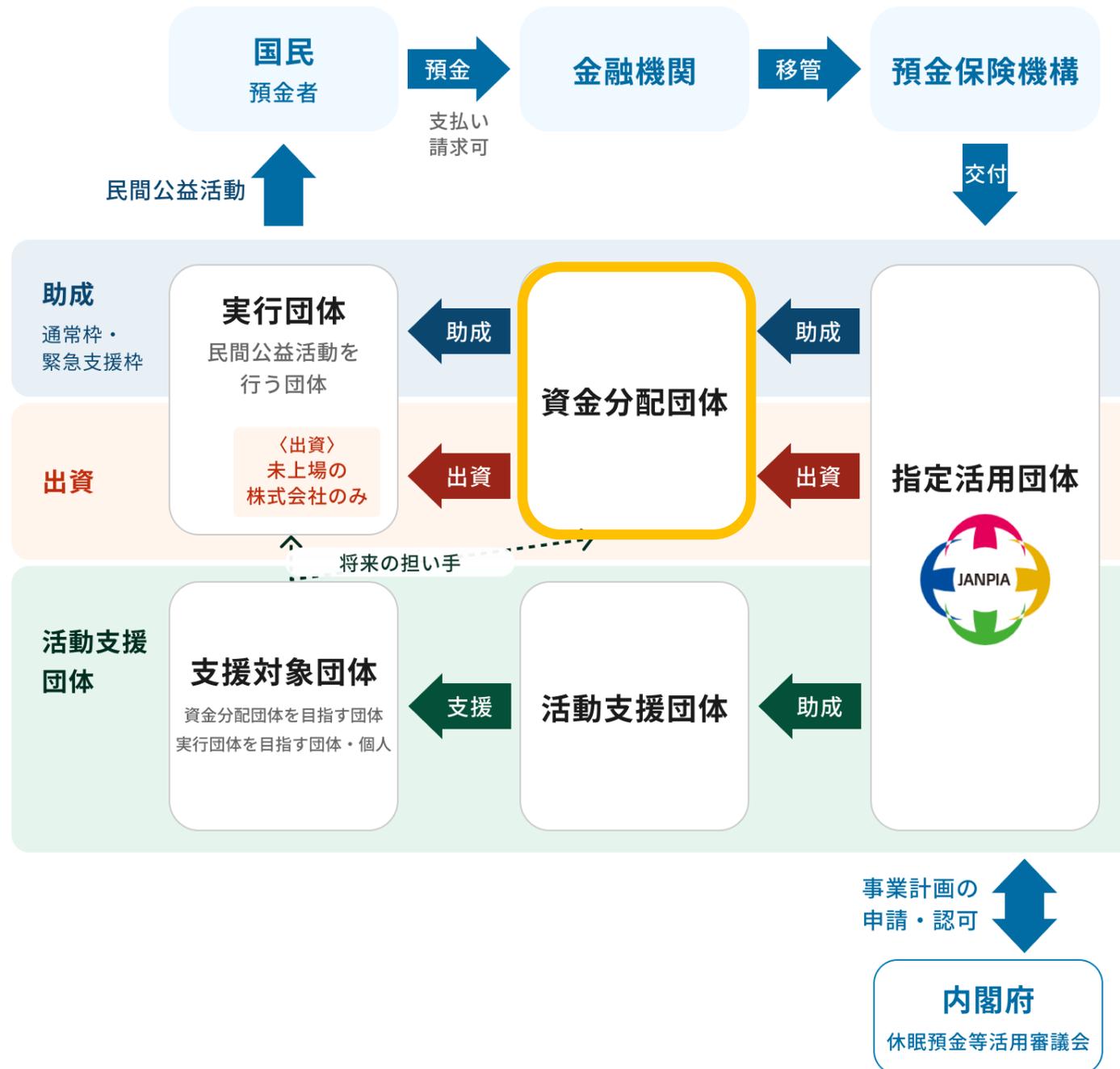


- ただのサービスにしない。つながりを地域の力にするための「装置」に徹する

- ただ居場所を運営するだけでなく自治を保管するモデル
- 見えた課題を放置しない会議体(実行会議)の形成

- 地域で見えてきた課題を政策に反映する事業の提案を行う
- 市民ハブ人材という枠組みがはじまる

休眠預金活用について



ニュータウンにおける新しい自治モデル開発をめざす助成プログラム

支援対象の地域団体が、NTで課題となっている空き家・空き団地・空き室を拠点とし活用したコミュニティビジネスを展開することによって、団体の持続的運営や課題解決に向けた基盤を強化でき、NTでの社会的孤立を防ぐ支援団体として住民自治の先行モデルを目指している。

支援者のネットワークを構築し、地域経済が持続的に循環することが重要であり、NTに係る市民・企業・自治体との新たなマッチングによって新たな資金循環が生まれ、活動団体が自走できる仕組みをNTにおける先行モデルとして目指すものである。

助成プログラム名	泉北ニュータウンの孤立と地域をつなぐ助成事業
採択団体数	3団体（A型1団体・B型2団体）
助成額	A型 4,500万円 B型 3,000万円
対象となる事業	事業の最終的な受益者 社会的孤立状態にある、またはそのリスクが高い当事者やその家族等 事業の目的 社会的孤立状態を「予防」「早期発見」「対応」ができる地域や社会のシステムづくり 事業による対象者 ①当事者、②家族や親族等、③支援者・関係機関・地域組織など 事業実施地域 泉北高速鉄道沿線の泉北ニュータウン（堺市中区・南区・和泉市）において実施される事業

助成事業を通じて生まれた自走型自治モデル

ほーぷカフェ 福祉コミュニティモール開設事業

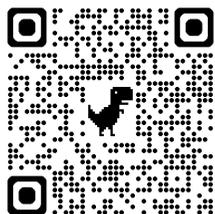


特定非営利活動法人福祉ワーカーズほーぷ

■アウトプット
受益者数計5,837名

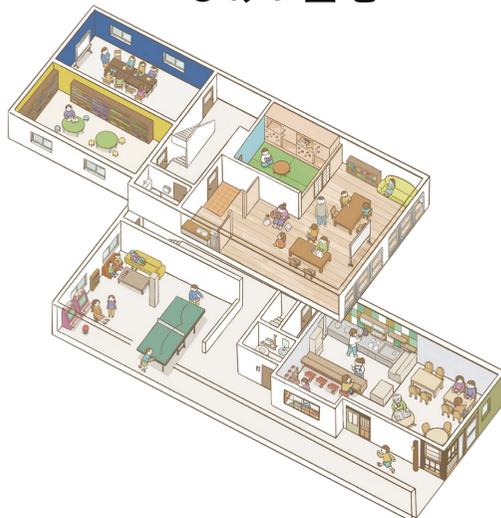
■アウトカム
日々の暮らしの安心感が高まった
約30%

ほーぷカフェができて活動がやりやすくなった 60%



不登校の子どもと地域の子どもがゆるくつながる居場所事業

泉北BASE ひみつ基地

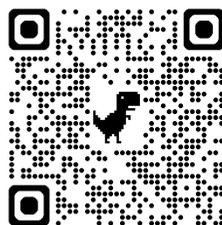


特定非営利活動法人志塾フリースクールラシーナ

■アウトプット
フリースクール累計17名
カフェ 2万人
フリースペース 3万人

外部との連携 りんくる・視察

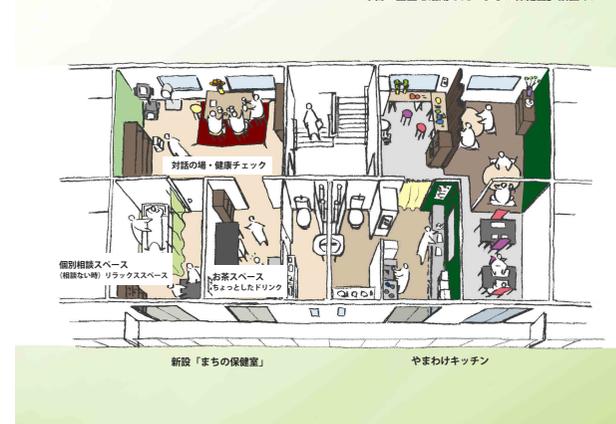
■アウトカム
実行会議でのケース検討が毎回2名
→約24ケース



孤立を生み出さない、地域の声・困りごとをみんなのアイデアで解決する関係づくり

日本一多様な幸せが実現できる団地をめざして 団地ライフラボ・茶山台ほけんしつ

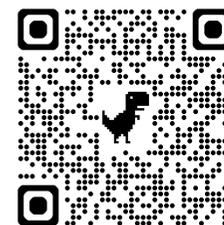
1年目：空室を活用した「まちの保健室」設置イメージ図



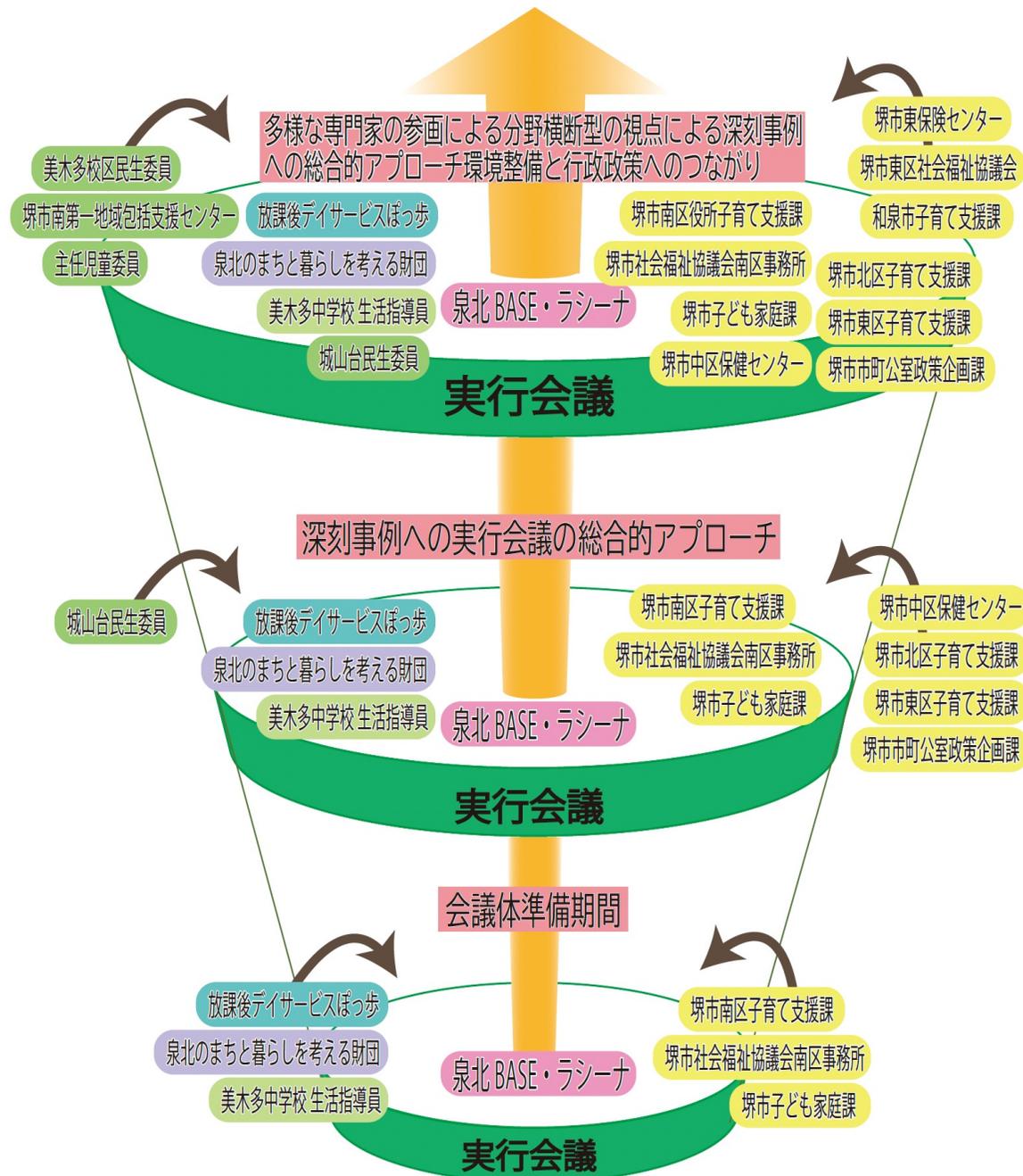
特定非営利活動法人団地ライフラボat茶山台

■アウトプット
カルテ124名分
見守り住民 のべ364名
中学生食堂 のべ110名
支援への接続10名

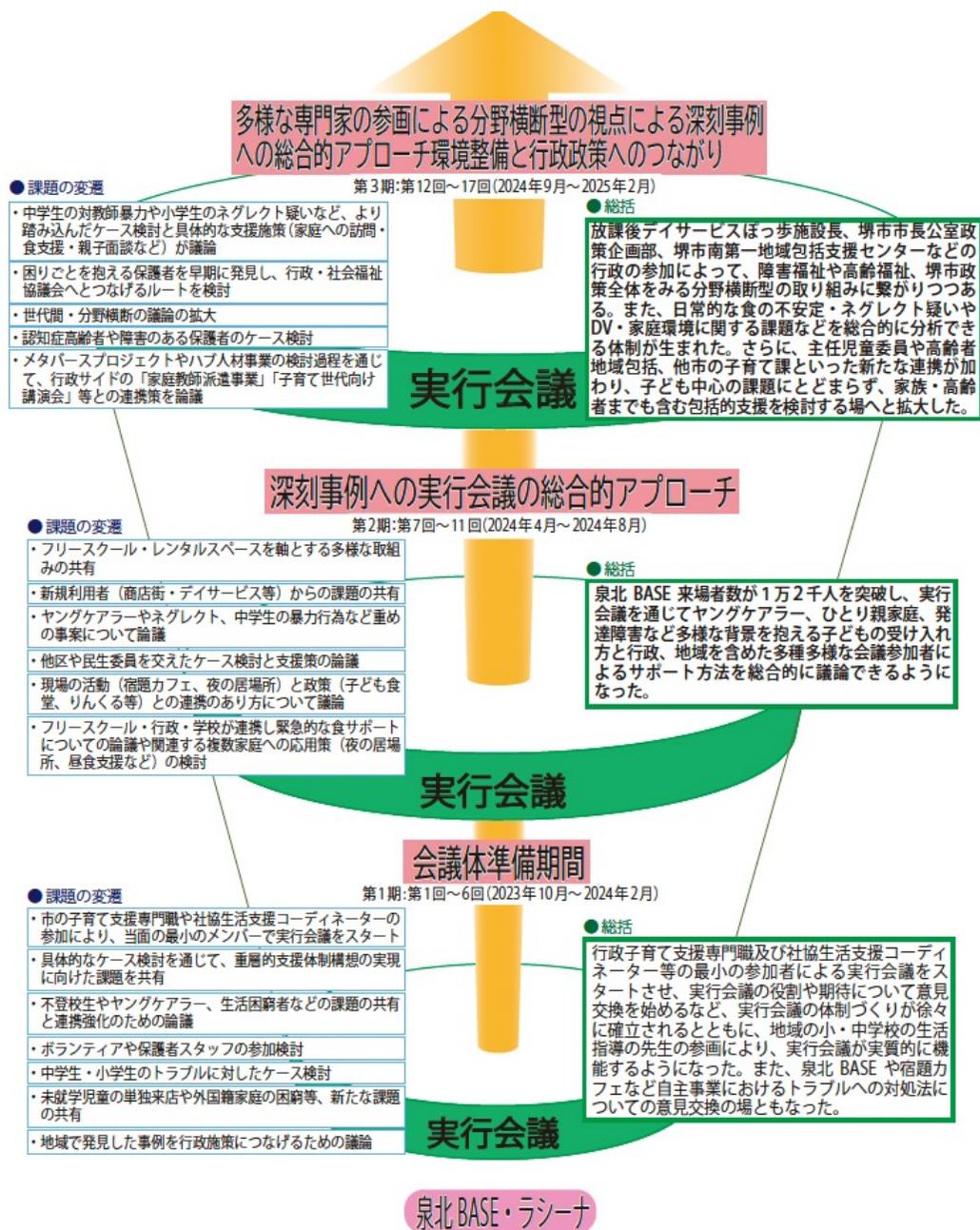
■アウトカム
実行会議のケース検討14件
子どもの居場所が生まれている
新規のCB3件2件の設計と実施準備



地域版「重層的支援体制整備事業」



地域版「ケース会議」を通じた課題解決に検討



行政等の連携 各事業分野の取組（スマートタウンWG）

スモールエリア ニーズシーズマッチング事業

堺市・南海電気鉄道株式会社・特定非営利活動法人SEIN

泉北ニュータウン地域の地域活動団体とコンソーシアムが連携し、地区単位（小学校校区程度の範囲を対象とした身近な生活圏）で住民が抱える課題（ニーズ）とコンソーシアムの会員企業等が有するICT技術のサービス（シーズ）のマッチングを行い、当該課題の解決をめざす取組

団地在住の高齢者のための見守り支援の仕組みの導入

- ・民生委員や地域包括センター・社協等と連携し、アプリの普及活動を実施
- ・定期的に団地でスマホ講座を実施し、住民のアプリ導入や活用を支援
- ・泉ヶ丘デジタルスタンプラリーのポイントとしての連携

孤独孤立やフレイル状態にある高齢者の移動支援・交流支援

- ・団地住民の移動を支えるグリーンスローモビリティの取組
- ・団地住民自身が運営し、本格導入に向けた実証を開始

その他（検討中案件）

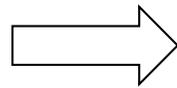
- ・自宅訪問型事業者向けのオンライン駐車場予約サービス事業の促進
- ・メタバース活用による不登校支援の取組



ケースマネジメントによる現場と政策をつなぐハブのあり方③ ハブ人材という自治体と地域、企業のインタープリターとしてのハブ人材

一般的なNPOの事業実現のつくり方

ほっとけない！



自治体



- ・政策的な予算を取っていない
 - ・公平平等の原則で・・・
 - ・社協さんに相談して・・・
- など課題をぶつけても実現しにくい

政策へ割り込むための事前準備した政策提案

行政が組めるパートナーの要件定義

人材公募と推薦

「問い」の明確なハブ人材が事業実施

制度的な課題
国土交通省
地域公共交通会議
交通事業者
インフラ事業者
駐車場etc,,,,
実現のハードル多数



ICT技術×企業等との連携で
地区課題の解決をめざす人材を募集

応募締切：令和6年2月29日（木）

概要

- ・民間事業者・SENBOKUスマートシティコンソーシアム（堺市・南海電気鉄道(株)・大阪公立大学等と連携して、ICT技術を活用して泉北ニュータウン地域の地区（小学校校区程度の範囲を対象とした身近な生活圏）の課題の解決をめざす住民や地域活動団体等（市民ハブ人材）を募集します。
- ・事業詳細は右記のQRコードまたは下記のURLをご確認のうえお申し込みください。 <https://semboku-smartcity.com/smarttown-news/civichubersonnel/>



市民と企業の学びと交流の場

（地域課題×スマート技術研究会）
河内長野市南花台でICT技術を活用して地区の課題解決に取り組むキーパーソンをお招きし、事例を学びます



自治体



政策企画室がハブ人材を所管し、提案のあった事業は採択後に原課を仲介



移動困難者への
グリーンスローモビリティ
の機会提供

間接的な支援

全国コミュニティ財団協会

- 28団体
- 寄付人口カバー率
79.8%
- 副会長を務める
- 災害時の緊急支援
- 財団空白5地域を現在も支援中



寄付者749名^ま
寄付総額6,458,189円

団

今治・西条 山林火災復興支援基金

目標 **200** 万円 **4月30** 日まで

寄付者174名
寄付総額981,300円



賛助会員
認定NPO法人 日本ファンドレイジング
認定NPO法人全国こども食堂支援セ:

**寄付頂いたすべてのみなさん
事業連携いただいたみなさま
感謝申し上げます**